

「本音」を聞く

新政局への対応

聞き手・朝日新聞編集委員・田中 豊蔵

幹事長として、はじめての国政選挙（五二年参議院選）では、保革の比が逆転するかに見られていたが、大平は「内政、外交とも不協和音はいろいろ出るが、重心が大きく狂うことはない」と述べている。田中氏は現在、朝日新聞論説顧問。

流れのままイカダ乗り

参院選挙で過半数を割りそうだという自民党結党以来の危機ですが、今どんな心境ですか。

「まあ、私はイカダに乗っているような気持ちですね。流れが気にいらんといっても、いまさらどうしようもない。流れのままに、流れるよりしようがない。流れを見詰めながら、岩壁にぶつからないように、激流にのみこまれないように気をつけながら……」

どんな結果が出て、対応できるよつに、ということか。
「そういうことだな」

しかし、大平さんといえば一般に、日本の保守とか政治体制のあり方とか理念や哲学を考える

政治家とみられてきた。イカダでは大平哲学がなさすぎる。最近の大平さんは何を考えているのか、という声を自民党内でも聞くが。

「(うつー、としばらく言いよんで)きのうもきょうも同じペースで考え、行動してきた。別に変わったこともない。手軽に胸がスツとするようなことをいうのは私の性に合わない。それはともかく、私は日本人は意外に賢明で、平衡感覚を持っていると思う。内政、外交とも不協和音はいろいろ出るが、重心が大きく狂うことはない。だから、あわてて危機感をがり立てる必要はないと思っっているわけだ」

最近の記者会見で、大平さんは「新自由クラブは自由社会を守る基盤を崩す役割を果たしている」と述べるなど、自民党から分かれた新自由クへの対決姿勢をことさらムキ出しにした。だが、こんなケンをすればするほど自民党は損するのではないですか。

「党内、とくに地方には『新自由クラブへの態度をはっきりさせる』という声がある。そんな党内での論議を披露しただけで、新自由クとの対決を指示したつもりはない。私の考えはちよつと違つ。自民党は今、他党的ことをあれこれいふ必要はない。あくまで自民党自身の体質や姿勢を改めてゆくしかないと思っっているわけだ……」

参院選の見通しが、これ以下には絶対ならない、これ以上負けたら責任問題が起こるといふ線をとどのあたりに置いていますか。

「むずかしいことを聞くなあ……。今は『改選議席数の六十五以上を確保する』と一生懸命やっているとしかいいない。ほかのことを考えている余裕はない。六十五議席はなんとか取りたいし、取れない相談ではないと思つが……」

共同責任は迷惑

「こんなことを聞いたのは、党内には「福田、大平ワンセット（共同責任）」という見方があるからです。

「ワンセットなどとはおろかな話だ。福田さんのあとをだれがやるか、いまはまったく白紙でしょ。大平も越えて若手がどんどん出てこなければだめで、総裁公選規定を改めて門戸開放したわけだから、新しい候補が出るべきだ」

その候補の中には大平さん自身も含まれる……。

「もちろんだ。ワンセットなんて、どういふことかね。大変迷惑な話だ」

福田首相の周辺には、「角影内閣」といった不評を払拭（ふっしょく）するため、選挙後は田中、大平両氏との関係を薄めてゆくべきだ、という考え方も一部にあるようだ……。

「現在の問題は、党内のどの勢力をどうこうするという次元の話で解決することではないだろう。福田内閣成立の経過から挙党協内閣だといわれているが、われわれはそうは考えない。世間の誤解は福田内閣が諸政策をきちんとやり、党内デモクラシーを貫けば次第に解消されるはずだ。内閣改造など、参院選挙後のことは福田首相と話したことはない。何も聞いてないから分からないが、原則として福田政権が続くわけで、よくよくのことがない限り、総裁の考えを尊重してゆくべきだと思っている。福田さんとは長い間、対立関係にあったが、天下に奉仕する立場で今は協力している。二人の仲はいいも悪いもない」

大平さん自身の政権構想を考える上で盟友といわれる田中元首相との関係をどうしてゆくつもりですか。

「田中さんは私の親友であり、友誼（ゆうぎ）に変わりはない。ロッキード事件とのかかわりが出たからといって疎遠にするつもりはない」

最後に、選挙後の政局展望と、国民に強調したい点を。

「これまでわが自民党の一党単独政権のもとで、内政、外交とも一貫した方針で国政が行われてきた。いろいろ批判されることもあったが、民主政治は次第に定着してきている。自由市場経済体制も一応機能している状況だ。外交についても、とにかくつましい防衛力のもとで、新たな緊張を生まなような外交、防衛政策が定着しつつある。日本の政治は大筋で健全な方向に熟しつつある。この大きな軌道は崩したくない。国民も大きな変革は望んではない」

「自民党とその政府は日本の財産の一つだと思う。こういう財産をもう一つ作れといっても容易にはできない。それだけに国民の要望にできるだけ応えて行くには、党の体質、性格、組織を十分吟味して行く必要がある」

「いずれにしる自民党を軸にしないと日本の政治は回らない。野党は革新連合政権構想を打ち出してきているが、幻想であり、そういうものができるとは思わない。政治は自民党を中心として動き、野党は自民党の衛星だ。自民党が日本の政治のバックボーンにふさわしい政党として、さらに力をつけて行かなければならない。そのために国民の支持を望んでいる」